

箕面市教育大綱(素案)

はじめに

近年、ICTの進歩、グローバル化、超少子高齢化が進展する中、地域のつながりの希薄化、ひとり親家庭の増加、子どもの貧困の深刻化、後を絶たない児童虐待など、社会情勢は急速に変化し、家庭環境や教育環境は大きく変化しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、新しい生活様式を取り入れながら持続可能な社会を創造していかなければなりません。

箕面市においては、北大阪急行の延伸により、船場地区のまちづくりの一貫として新たに図書館や生涯学習センターがオープンするなど、さらなる教育環境の充実が期待されます。

そのような中であって、本市は学力、体力、生活習慣とバランスのとれた教育環境を実現し、学力だけではなく、体力と生活習慣を伴った総合的な人格の形成、豊かな人間力を育む教育に傾注し、「子育て・教育日本一」を目指します。

そして、箕面から国際社会で活躍するグローバル人材の育成を図っていきます。

令和3年(2021年)3月●日
箕面市長 上島 一彦

大綱について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、「地方公共団体の長は、教育基本法第十七条第一項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。」(第一条の三)とされています。

箕面市教育大綱は、予算編成権を有する首長と、教育を所管する教育委員会が、教育に関する方向性を合意し、教育行政をより円滑に進めていくことを目的に、総合教育会議において議論を重ね、策定するものです。

本大綱は、箕面の教育に関する基本方向を記載しており、4年ごとに見直しを図っていきます。また、箕面市教育大綱別紙については、大綱で定めた基本方向の実現に向けた具体的な取り組み事項を記載し、総合教育会議で進捗状況を確認します。

箕面市教育大綱の基本方向

□ 学校教育

子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

□ 子育て施策

家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

□ 生涯学習・社会教育

「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

学校教育

子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

グローバル人材の育成のために、学習支援と英語力向上に積極的に取り組みます。

児童生徒1人1台配備されたタブレット端末の柔軟な活用や本市独自の「箕面子どもステップアップ調査」の活用を通じ、学習支援の「質」の向上を推進します。英語教育は、英語指導助手を積極的に配置し、毎日英語に触れる授業を実施します。そして、個々の習熟度に応じた学習指導体制を構築するとともに、教員の授業力・指導力を向上し、すべての児童生徒がそれぞれ着実に学力向上を果たせるよう支援します。

また、箕面の子どもたちの課題とされる体力向上にも着実に取り組みます。

- ICTを活用した情報活用能力の向上
- 英語教育の強化によるグローバル人材の育成
- 体力向上を図る取り組み
- 教員の授業力・指導力のさらなる向上
- 小中一貫教育のさらなる推進
- 35人学級の早期実現

子育て施策

家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

効果的かつ効率的に施策を実施するため、保育所などの児童福祉部局、乳幼児健診などの母子保健事業を、市長部局ではなく教育委員会で所管し、妊娠期から継続性のある支援をできる体制づくりをしています。

- 豊かな人間力を育むための子育て支援
- 貧困の連鎖の根絶
- 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援
- 全ての子どもが安心できる幼児教育の実施
- 子育て支援と外出促進

生涯学習・社会教育

「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

市民ニーズをふまえた着実な取り組みを進めるため、基本となるさまざまなことの学習機会ニーズとして「知りたい・学びたい」、その学習をさらに探求し活用するニーズとして「深めたい・活かしたい」、学習における人と人とのつながりに関するニーズとして「つながりたい・広げたい」、自発的な学習への支援などに関するニーズとして「支援・推進してほしい、協働したい」の4つの観点を踏まえて、生涯学習施策を展開します。

- スポーツを通じた健康長寿への取り組み
- 図書館サービスの充実
- 生涯学習の場の充実